

令和4年度第1回八尾市総合計画審議会（書面開催）における委員意見及び市の見解等

※ご提出いただいたご意見は、趣旨を損なわないように要約しています。

【議事1について】（資料2）

No.	意見者	該当頁	該当箇所	意見	市の見解等
1	野村委員	資料2 1ページ	【基本目標1】 基本目標指標「校区まちづくり協議会が多様な主体と連携した事業数」	基本目標指標である「校区まちづくり協議会が多様な主体と連携した事業数」における“多様な主体”の定義は何でしょうか。	第6次総合計画に記載している「市民や地域、企業、NPO等」のことで定義しております。
2	和田会長	資料2 1ページ	【基本目標1】 基本目標指標「つなげる支援室で支援調整などを行った件数」	「つなげる支援室・・・件数」の指標について、本来、このような指標が増加することは喜ばしいことではないが、昨今の複雑な社会情勢において、横断的に支援・調整する仕組みは不可欠、かつ重要であり、今後も相談内容の検証も行いながら、支援強化に臨んでいただきたい。	つなげる支援室で対応した相談支援内容等につきましては、庁内の相談支援関係課を構成員とした会議を設け、効果的な相談支援体制のあり方について、多面的に調査・検証・検討を実施しております。今後も引き続き、相談支援の充実とともに、課題を抱えた方が、地域での生活を継続できるよう、地域の間づくりや参加する機会を確保する仕組みづくりについて、関係機関との協議を進めてまいります。
3	大本委員	資料2 1ページ	【基本目標1】 基本目標指標「つなげる支援室で支援調整などを行った件数」	つなげる支援室の取り組みは、実績値からも順調に推移している。課題解決につなげる支援体制の強化に引き続き取り組んでいただきたい。 128件の対応、支援内容について可能な限り開示を検討していただきたい。（市長の推しごと紹介のyoutubeを拝見しました。）	今後も引き続き、相談支援の充実とともに、課題を抱えた方が、地域での生活を継続できるよう、地域の間づくりや参加する機会を確保する仕組みづくりについて、関係機関との協議を進めてまいります。 また、つなげる支援室の取り組み内容等につきましては、ホームページに掲載しているところですが、相談等の支援内容につきましても、掲載できるよう工夫してまいります。
4	和田会長	資料2 1ページ	【基本目標1】 施策KPI「地域活動への参加状況」	「地域活動への参加状況」のKPIについて、ウィズ・コロナのライフスタイルが定着しつつある中で、前年より下降した理由を所管課はしっかりと検証する必要がある。	ウィズ・コロナのライフスタイルを取り入れた地域活動を促進し参加者を増やしていくため、地域の取組事例の紹介や、地域でのオンライン会議等を促進するための研修会等を実施してきました。しかし、地域活動の担い手の年齢層が比較的高く、感染リスクのある活動を中止等されたことから、地域活動への参加状況が低下したものであると認識しております。今後もコロナの状況下にあっても地域活動を停滞させない取組みを進めてまいります。
5	野村委員	資料2 1ページ	【基本目標1】 施策KPI「地区防災計画策定済み地区数」	目標値が28で実績値が1ということですが、策定済みの1地区以外はすべて策定中なのでしょうか。	現在、全28地区のうち12地区が策定中です。
6	石村委員	資料2 1ページ	【基本目標1】 施策KPI「高齢者見守りサポーターやお」協力事業者の登録数	「高齢者見守りサポーターやお」の登録者数を増やすことについては賛成である。ただ、増やすだけでなく、「サポーター」の質の向上にも目線を置くべきだと考える。質を客観的に評価する方法としては、高齢者からの満足度で確認する。	「高齢者見守りサポーターやお」登録者数の増加につながるよう、事業者等への制度周知を引き続き進めるとともに、現在登録している事業者へは事業内容の再周知や好事例の紹介など、意識向上に資する研修の検討などにより、質の確保に努めてまいります。なお、高齢者自身が意識することなく、事業者等が普段の生活や業務において生活上の異変に気付くことにより高齢者を見守っていくという事業であるため、質の評価を高齢者自身による満足度で計測することは困難ですが、通報件数や対応結果などからも客観的な評価ができるよう取り組んでまいります。

7	野村委員	資料2 2ページ	【基本目標2】 全般	まちのコインと結び付けて健康意識の高い市民を増やすという目標を入れた方がいいと思います。	八尾市では、市民の健康意識を高めるため、生活応援アプリ「やおっぷ」を使っただけの啓発を検討しているほか、大阪府民の健康づくりをサポートするアプリ「アスマイル」の活用を推進しております。「まちのコイン」の活用方法につきましては、今後、研究してまいります。
8	石村委員	資料2 3ページ	【基本目標3】 基本目標指標「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」	発達段階に応じた学習内容として、地元の中小企業と交流や職業体験など、実際に働くとはどういうことなどを学べる機会を設ける必要があると考える。	コロナ禍において職場体験を受け入れてくれる施設がほとんどなく、今年度は職場体験を実施できていません。しかしながら、社会見学の実施や職業調べ学習、ゲストティーチャーの招聘による職業講話など、各学校の実情や児童生徒の発達段階に応じて取組みを進めております。
9	和田会長	資料2 3ページ	【基本目標3】 施策KPI「子ども・子育てに関する総合相談件数」・「地域子育て支援拠点における相談件数」	「子ども・子育てに・・・相談件数」および「地域子育て支援・・・相談件数」のKPIについて、そもそも相談件数は所管課が把握しておくべき数値であり、KPIとして掲げるのは適当なのか？昨今の社会情勢を鑑みれば、上記のような相談件数は増える傾向にあり、むしろ市民の相談後の満足度・納得度に焦点を当てるのが重要ではないか？加えて、相談窓口担当者の十分な確保、および適切な対応がなされているか、も重要であり、KPIの選定を再考されてはいいかがか。	「子ども・子育てに・・・相談件数」および「地域子育て支援・・・相談件数」の相談件数は、市民が市に相談し不安や悩みを解消しようとするのが、子どもにとってより良い状況を作り出すと考えていることからKPIとしております。なお、ご提案いただいております市民の相談後の満足度・納得度及び相談窓口担当者の十分な確保、適切な対応がなされているか、といった成果を客観的に測ることの出来る指標となるよう、第2期総合戦略（後期）の見直しの際に成果指標の変更について検討してまいります。
10	辰巳委員	資料2 3ページ	【基本目標3】 施策KPI「地域子育て支援拠点における相談件数」	実績は前年に比べ減少しているが、コロナ対策による人数制限のためであり、件数も増加しているのでリモートでの相談もあればよいのではと思った。またどのような相談があるのか気になった。	令和2年度のコロナウイルス発生以降、地域子育て支援拠点事業所においてはオンラインに対応できる環境整備をすすめてまいりました。現在は、SNSを活用した相談またはZoomによる交流会等段階的に実施しており、参加される方の状況等をみながら、進めてまいります。相談内容については、コロナに対する不安をはじめ、離乳食や発達について等子育てに関する疑問が多数を占めています。
11	和田会長	資料2 4ページ	【基本目標4】 基本目標指標「男女共同参画が実現していると思う市民の割合」 施策KPI「市の審議会、委員会などにおける女性委員の登用の割合（年度末時点）」	「男女共同参画が・・・の割合」の指標と「市の審議会・・・登用の割合」のKPIについて、ジェンダー問題への取り組みは、国を挙げて推進されるべき状況にあり、貴市においてもKPIの女性委員の登用率は3-4割であることから、市内での実績はある程度評価できるのに対して男女共同参画に対する市民意識がかなり低いと思われる。よって、「学校教育」の場においても意識・啓発がより一層必要であり、所管課は教育委員会とも積極的に連携・教育を行っていただきたい。	コロナ禍において就労や生活面において女性を取り巻く状況が厳しいものとなるなど、従来から潜在的にあったものの表面化してこなかった課題がコロナ禍をきっかけに可視化されています。若い世代に対する取組みを強化するため、八尾市男女共同参画センター「すみれ」を中心に教育部局と連携し、男女共同参画社会の実現に向けた意識の醸成や啓発の取組みを積極的に行ってまいります。
12	和泉副会長	資料2 4ページ	【基本目標4】 施策KPI「生涯学習施設で実施する講座等の参加者数」	コロナ禍、実施回数の減は仕方がないことと思います。このこととは無関係な提案です。どのような講座を開催して欲しいのかを検討する市民レベルの組織体があれば、さらなる参加者の増加や文化性の向上などに期待できるのではないのでしょうか（講座後のアンケート調査のようなものではなく）	地区の運営協議会を通じて地域のニーズに合った新規講座の要望や意見等を聞き、各コミュニティセンターや生涯学習施設と調整しながら進めております。
13	大平委員	資料2 5ページ	【基本目標5】 全般	全体として、目標の達成に向けて順調に取り組んでいると思われ、概ね評価できる。他方、コロナ禍の影響で指標が伸び悩んだ項目もあり、「ウィズ・コロナ」の状況でも実績を上げるための工夫が必要と思われる。また、「中小企業におけるイノベーション実践数」について、昨年度は地方創生臨時交付金の活用で実績値が大幅に伸びているが、こうした一時的な効果が終了した後でも、実績が持続して上向くような方策が必要と思われる。	地方創生臨時交付金を活用した補助金の採択を受けた事業者を積極的にフォローアップし、またそれら採択を受けた事業者を活用事例として広く広報することにより、市内事業者のイノベーションへの積極的な取組みを促進します。

14	椎野委員	資料2 5ページ	【基本目標5】 基本目標指標「立地制度活用による工場立地件数」	八尾市内企業に於いて、工場建屋・設備の老朽化及び事業規模拡大に伴う工場移転ニーズが増しておりますが、八尾市内で新たに用地を確保することが難しい状況にあります。市外への工場移転を防ぐ観点から、市として今後、何らかの施策を講じる必要性が高まっているように思います。	令和3年度に八尾市工場等立地推進審議会を開催し、市内工業集積のさらなる維持・推進を図るための検討を進めた。今後、工業集積施策を進めるための更に具体的な手法やスキームについて検討を実施します。
15	椎野委員	資料2 5ページ	【基本目標5】 基本目標指標「産業分野にかかわる関係人口の対基準年度比」	「産業分野にかかわる関係人口の対基準年度比」が基準値比55.9%に留まる一方、施策KPI「中小企業におけるイノベーション実践数」が基準値比1,252.7%となっております。この関連性について、市としてどのように評価、分析されているのでしょうか。	新型コロナウイルスの影響によりイベントが中止、縮小し、関係人口の実績が伸びなかったものの、交付金の活用により本市施策として、意欲ある補助メニューを拡充することで、新事業やデジタル化に取り組む市内事業者が増加したものと分析します。
16	石村委員	資料2 5ページ	【基本目標5】 施策KPI「地域就労支援センターにおける相談者の雇用達成の割合」	求職者が事業者と結びつくようにきめ細かな職業紹介を行うことは賛成である。しかし、COVID19や原材料の高騰もあり受け入れ先が減少している実情を踏まえると、企業への工場や倉庫などの積極的な誘致を行い、働き口を増やすことが雇用達成の上昇に繋がると考える。	引き続き、相談者一人ひとりに寄り添った就労支援を行うとともに、企業誘致のインセンティブとなる「八尾市ものづくり集積促進奨励金」を積極的に情報発信するほか、工業集積施策を進めるために具体的な手法やスキームの検討を進め、積極的な企業誘致を図ることで、市内の求人数を増やしていく。
17	伊藤委員	資料2 5ページ	【基本目標5】 令和3年度実績のまとめ一取り組み実績	「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が国から交付されたことを受け、意欲ある事業者経営・技術支援補助金を大幅に拡充して事業者支援を実施したことにより、R3実績値は大幅増となった。」とありますがコロナ対策として大変評価できます。一方、R6年度の目標値が1/10の63件と大きく減少する計画になっています。イノベーションの実践において補助金へのニーズは強いものがあります。予算の制約はあると思いますが、実績の上積みのため支援策の継続は検討できないのでしょうか。	事業者支援施策の継続実施にあたり、令和5年度以降の交付金等の充当等については、現在予算の担保が取れていない状況です。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が縮小・廃止され、これらを活用できない場合は、産業振興基金の充当を検討するなどし、予算の範囲内で最大限の事業者支援を図ってまいります。
18	伊藤委員	資料2 6ページ	【基本目標6】 基本目標指標「住み続けたいと感じる市民の割合」	「八尾市外へ引っ越したい理由として20～29歳では「通勤・通学に便利な環境を求めて」、30～39歳では「まちなみの景観や自然、静けさや治安などの住環境を求めて」を選択した人が最も多くなっている。」とありますが、もっと詳細な分析が必要だと思います。通勤通学に便利な環境とはどこなのか、八尾のどこが不便なのか、また八尾は静かで治安が良くないのか等、原因を分析して、できることを一つずつ解決していく必要があると考えます。	「通勤・通学に便利な環境を求めて」について、八尾市は各鉄道が乗り入れており交通の利便性が高いまちですが、一部では鉄道駅やバス停からの距離が遠く、公共交通機関の利便性が低い地域があります。現在、そういった地域の解消に向けて持続可能な公共交通サービスの検討を進めています。また、「まちなみの景観や自然、静けさや治安などの住環境を求めて」について、治安の面では、市民意識調査の自由意見において防犯灯・街灯の設置を求める意見が多くありました。八尾市では安全安心のまちづくりを進めるため、自治会などに対し防犯灯の新設・取替え費用や電気料金の補助を行い防犯灯の設置を促進しています。
19	辰巳委員	資料2 6ページ	【基本目標6】 基本目標指標「住み続けたいと感じる市民の割合」	八尾市出身なので定住意向の割合が減ったのは残念だ。ただ意見にもあった「通勤・通学に便利な環境を求めて」についてはよく思うことなので、何かこのマイナスイメージをカバーできればと思う。	R3年度市民意識調査の結果では、今後も八尾市に住み続けるかどうか「わからない」と回答した人の割合が大幅に増加していることから、これらの方々に八尾市に住み続けたいと感じてもらえる取り組みが重要だと考えています。八尾市における公共交通機関の利便性が低い地域の解消に向けて持続可能な公共交通サービスの検討を進めています。例えば竹淵地域では、地域と鉄道駅（JR久宝寺駅、近鉄八尾駅）を結ぶ乗合タクシーの実証運行を実施しています。

20	和泉副会長	資料2 6ページ	【基本目標6】 施策KPI「都市計画道路の整備率」	私はJR八尾駅のそばにある「旧植田家住宅」の管理運営会議に参加していますが、ここで地域住民の方々から、古き良き八尾のまちなみがどんどん消えていってしまう。悲しいことだとの声がたくさんあるということを伺っています（ご高齢の方々が中心だと思えますが）。確かに、緊急自動車のことなどを考えると道路整備は必要なことだと思いますが、「同時」に、消えゆく地域の風景についても思考を巡らせ、何らかの形で残し、記憶を伝え、市民へ発信する取り組みが必要であるように思います。地域史のつながりは、世代のつながりであり、ひいては地域住民のつながりであると考えられます。（観光・文化財課のお仕事かもしれないですが）	これまで地域とともに、植松地区の歴史や風土等を活かしたまちづくりをテーマに、JR八尾駅周辺整備について検討し、JR八尾駅を中心とした駅前広場の整備等を行って参りました。現在進めています都市計画道路JR八尾駅前線については、国道25号から先行して整備しましたJR八尾駅へのアクセス路となり、交通ネットワーク化による渋滞緩和や地域の生活圏内における通過交通の抑制による交通事故減少、防災性の向上が期待できる路線になります。このような中、引き続き、安全で快適な道路空間の確保を図りつつ、無電柱化などによる景観への配慮に取り組むとともに、地域の歴史や風土を活かした取り組みについても研究して参りたいと考えております。
21	伊藤委員	資料2 6ページ	【基本目標6】 施策KPI「Instagramフォロワー数」	「13～24歳が5.1%、25～34歳が21.2%となっており、若者への認知度向上やターゲットと手法のマッチングが課題」とありますが、若者への訴求のための具体的な対策が望まれます。そのためには、例えばリール（ショート動画）を増やす、また動画をインスタ以外のSNSにも投稿し相乗効果を図る、という対応策はどうか。	令和2年度にアカウントの投稿内容やコンテンツの活用方法を改めたことにより大幅にフォロワー数が増加したことから、機能を最大限活用することによる若者への訴求は効果的であると考えています。他のSNSとの連携については、引き続き検討を進めてまいります。
22	石村委員	資料2 6ページ	【基本目標6】 施策KPI「Instagramフォロワー数」	若年層への八尾市の認知度アップのためにInstagramを用いることには賛成である。しかし、Instagramだけではなく、TikTokも併用すると、より10代への知名度アップにつながるのではないかと考える。	TikTokについては、利用者に占める10代～20代の割合が高いことや、無関心層への一定数のリーチも認められることから、若年層への訴求に繋がると考えています。効果的な活用に向けて、コンテンツの内容や、他自治体の導入事例等について、引き続き研究を進めてまいります。
23	辰巳委員	資料2 6ページ	【基本目標6】 施策KPI「Instagramフォロワー数」	八尾市のインスタアカウントがあることを知らなかった。若者の目につくところに掲載してみるのもよいと思った。	情報収集の際に、インターネット検索に代わってInstagramが利用される傾向があることから、投稿内容や頻度、ハッシュタグのつけ方などを工夫することでInstagram内での表示を増加させることができると考えます。また他のSNSとの連携や別の媒体を活用した若者への周知等についても、引き続き検討してまいります。

【議事2について】（資料3、参考資料①、参考資料②、参考資料③）

No.	意見者	該当頁	該当箇所	意見	市の見解等
1	和田会長	資料3	全般	所感としまして、このたびの支援事業が市内のスタートアップ事業者の育成の「種まき→果実→再種まき」のサイクルがうまく回る仕組みづくりやサポートをしてこられたことは大いに評価されると存じます。引き続き、支援されるとのことですので、ぜひ所管課には事業者への目配りを継続いただきたい。	引き続き、先輩起業家が創業者をメンタリングできるような環境づくりを推進し、域内でスムーズな循環が進むよう支援してまいります。
2	大平委員	資料3	全般	事業のKPIとしていた3つの指標について、全ての年度で目標値を超える実績が達成できた点は評価できる。事業の実施に当たり、ビジネスプラン策定支援のためのセミナー講師に、実際の事業化を達成できた過去の受講生に登壇してもらっている点や、イノベーション推進プロジェクトでのマッチングイベントで、過去にマッチングして商品化できた事例を紹介している点など、事業の成功イメージをよりわかりやすい形で参加者に提示することで、成果指標の目標達成につなげる工夫をした点を評価する。 今後に向けて、新しいプランやプロジェクトが持続的に生み出される工夫が必要と思われる。	本市とイノベーション拠点である「みせるばやお」が連携し、自発的に企業が、新規事業やプロジェクトができる環境を促進し、絶え間なくイノベーションを創出する仕組みの構築に努めてまいります。
3	和泉副会長	資料3	(1) 事業内容—今後の方針等	評価できる取り組みであったと思います。 交付金事業としては完了であるが、今後も発展的に継続させていく方針であるということで、1点、意見させていただきます。 この取り組み自体（クラウドファンディングの4製品も含め）を発信できるようにまとめられてはいかがでしょうか（映像などで）。また、連携協定などを活用し、大学などで授業（実践的な学び）として取り上げてもらうような取り組みをなされてはいかがでしょうか。 資料2の基本目標3のタイトルは「若い世代が自分の将来を見つめ学び、ライフプランを実現できるまち」です。八尾のまちは可能性に溢れているということを発信することにつながるこの取り組みは、まさに、このタイトルのような発信につながる可能性があるのではないのでしょうか。 起業家のみでなく、大学生への発信も有効ではないかと思えます。	ものづくりの魅力を子どもたちに伝えるため、クラウドファンディングの4製品のひとつもおさめた動画を制作し、小中学校の社会科やキャリア教育に利用できるギガスクールの教材として活用しています。これらの動画は、YouTubeにも公開しており、広く発信しています。今後、大学への発信について検討を図るとともに、引き続き、情報発信に注力し、「ものづくりのまち八尾」としてのブランド力向上に努めてまいります。
4	伊藤委員	資料3	(4) 事業期間（令和元年度～令和3年度）を通じたの総括	「4製品がクラウドファンディングを実施しており、ふるさと納税へ出品した他、「大阪製ブランド製品」の認定や「関西ものづくり新撰」に選定されるなどブランド力を高めている商品が生まれている。」とありますが、大きな成果だと思います。事業期間が終了しますが同様の施策を継続するのでしょうか。是非継続してほしいと思います。	本事業の深化・高度化事業として、地方創生臨時交付金を活用し令和4年度から6年度も継続して実施します。DXの活用や商品開発、販路開拓支援などに注力し、新たなイノベーションを生み出しブランド力向上に努めてまいります。
5	石村委員	参考資料② 5ページ	「やお創業ゆるっとカフェ」	起業家の話を無料で聞ける機会は大切だと思うので、このような場を増やすべきと考える。また、日時を仕事がある社会人や学生が参加しやすい日程と時間を設定すれば、参加者が増えるのではないかと。	講演をしていただく起業家の方、参加者の方などの利便性を考慮し、柔軟な対応に努めてまいります。